

横田の空兵、ロデオに集結 *Yokota Airmen Roundup For Training Rodeo*

October 8, 2020

Staff Sgt Miquel Jordan
374th Airlift Wing Public Affairs

即応態勢の水準を上げることで、世界規模の機動力を即時展開する態勢を維持する、準備の整った、最強の、抗堪性の高い部隊が実現する。

それらの能力を維持するため、第374軍支援中隊は、9月28日、第374使命支援群が基地内のサムライ・トレーニング場で実施した戦闘技術訓練に参加した。

第374軍支援中隊司令ジェニファー・チャン中佐は、「我々の戦闘技術チームは、軍支援中隊内の数ある職種の人材相互活用を考慮した人員で構成している。約11,000人の空兵と民間人、11の小隊と5つの異なる職種を抱える同中隊では、世界規模の持続可能な即時運用を確実に実行できるように、多様な技術を活かし、あらゆる技能を持った空兵を育成することが最も重要だ」と述べた。

この日の訓練は、戦闘技術訓練と生存・運用力訓練(ATSO)の2部構成で行われ、軍支援中隊の空兵は第374施設中隊の緊急時対応部隊と連携し、正しい手順を確認した。

訓練のあいだ、空兵は化学・生物・放射性物質・核(CBRN)から負傷者自身および相互救護、攻撃後の偵察、資産の修復や除染に至るまで、戦闘能力に焦点を当てた、さまざまな作業ステーションを30分ごとにローテーションして行った。

「即時戦闘展開(ACE)のコンセプトに焦点を当て、不測の事態に精通することで、有事の際にも必要な場で一連の生活の質が確保できるように、対応能力を高めている」とチャン中佐は述べた。

第374軍支援中隊の空兵は、CBRNとATSOの手順を再習熟することで今後の演習に備え、多岐に渡る知識や技能を身につける。今回の訓練の成果は、この数カ月間に同中隊が行ってきた調整と努力の証であり、5年ぶりのATSOロデオを成功に導いた。

「総じて訓練は成功した。それはまさに、チームの努力の成果だったと言える。部隊の空兵たちを非常に誇りに思う」と、チャン中佐は今回の訓練を振り返った。

